国際平和をテーマとした総合的な学習の時間

── 日本と中国の歴史に触れる，調べる，学ぶ活動を通して ──

前大連日本人学校　教諭
鳥取県西伯郡南部町立会見小学校　教諭　安　達　嘉　也

キーワード：国際理解，世界平和，交流

１．はじめに

大連日本人学校は，中華人民共和国（以下中国）大連市にある在外教育施設である。大連市は，遼東半島の最南端にあり，中国東北部の工業，商業，貿易等の中心となっている。大連港は，上海に次ぐ中国第２の港であり，日本をはじめ世界140余りの国と海運航路を結んでいる。日本を含めた外資系企業は，大連市の産業の大きな部分を担っており，特に日系企業は重要なウエートを占めている。日本との経済的な関係は深く，大連市の貿易は，輸出入とも日本が最大の相手国となっている。大連市にある多くの大学では日本語学科が設置されているなど，日本に対して友好的な雰囲気が感じられる。一方で日露戦争の激戦地であった旅順も大連の市街地から近かったり，日中戦争時代の建造物等が見られたりするなど，戦争に関する悲しい歴史と結び付いたつながりも多い。

２．小学部６年生における取り組み（総合的な学習の時間）

大連日本人学校では，小学部３年生以上の総合的な学習の時間に，大連と日本とのつながりを中心に街探検や文化や歴史の調べ学習，中国の方との交流学習等に取り組んでいる。小学部６年生では，「大連・西安・日本～伝えられてきた道・私たちの歩む道～」というテーマを設定し，日本と中国の歴史に触れる，調べる，学ぶ活動を通して，日本と中国の歴史的つながりについて理解を深めること，修学旅行や校外学習などの体験活動や交流活動をしながら，自分の考えをもち，相手を尊重しようとする気持ちを育てること，活動を振り返り，今後の日本と中国のあり方について考えを深め，自分なりの生き方を見つけることをねらいとして取り組んだ。以下は平成20年度の小学部６年生における総合的な学習の時間の１年間の主な取り組みである。

	学習活動	教科・行事との関連
１学期	1　歴史から学ぶ「西安・日本～伝えられてきた道～」 修学旅行６年生学年テーマ 「さあ　出発だ!!我らが挑む西安　～ここからつなげる文化の道～」 ・修学旅行に向けて事前準備をする中で，中国の歴史や文化，つながりや関係について調べ，理解を深める。 ・西安の歴史文化的な史跡の建造物を見学することにより互いの文化を尊重する態度と国際理解についての素地を養う。 ・修学旅行で見学したり，体験したりして感じたことを旅行記にまとめる。	○国語 （ガイドブックを作ろう） ※修学旅行記作成
	○桃源小学校との交流１ ・交流会にむけて準備をする。中国語であいさつや簡単な会話を練習する。 ・桃源小学校との児童との交流で親交を広げる。現地理解を行う。	※桃源小との交流会

2学期	2「大連・西安・日本～私たちが歩む道～」 ・大連にいる様々な人にインタビューをして，今後の日本と中国の関係についての考えを探る。 学生・留学生・家族など	※インタビュー活動
	3　歴史から学ぶ「大連・日本～旅順平和学習～」 ・旅順での現地学習を通して，戦争の悲惨さや平和の大切さを知る。 ・大連に住む人に戦争の話を聞くことで理解を深めるとともに，これからの自分たちが歩む道について考える。	○社会 （旅順平和学習） ・日清・日露戦争
	4「大連・西安・日本～伝えられてきた道・私たちの歩む道～」 ・今までの活動を振り返り，学習の成果や自分たちの考えや思いがみんなに伝わるように分かりやすくまとめ，発表する。 《学習発表会　11月22日（土）》	
	○桃源小学校との交流２ ・桃源小学校との児童との交流で親交を深める。現地理解を行う。 ・交流会にむけて準備をする。中国語であいさつや簡単な会話を練習する。	※桃源小との交流会
3学期	5　学習のまとめ ・今まで調査，発表してきた活動を振り返り，自分が見つけた今後の日本と中国との関係についての思いやあり方を冊子にまとめる。	○総合学習のまとめ作成

(1) 桃源小学校との交流会

平成７年度より小学部は現地校・桃源小学校との交流会を行っている。平成18年度から，年３回の機会を設定している。職員同士も子どもたちに合わせる形で交流を深めている。子どもたちは中国語の学習の成果を生かして，自己紹介をしたり，名刺の受け渡しをしたりして交流を図った。日本人学校で交流を行う際には，低学年は生活科，３年生以上では体育や総合的な学習の時間等で取り組んだ。平成20年度の６年生は，スポーツ交流を中心にドッジボールやサッカーを通して交流を深めた。

(2) 西安への修学旅行

６月には中国国内の西安に２泊３日の修学旅行に出かけた。秦の始皇帝陵や兵馬俑など歴史的名所を見学すると共に，西安交通大学の日本語学科の学生とグループ別に交流した。日中友好や西安のこと，大連のことなど様々な話題について話し合うことができた。交流の輪が大連から西安へと広がっていくのを実感した時間であった。日本語学科の学生は普段日本人と接することが少なく，日本人と直接話ができることを切望していた。一方私たち日本人学校も通訳を介さず中国の方と話がしたいという思いがあった。両者の思いが一致した交流であり，充実した交流となった。

(3) 旅順平和学習

平和学習の取り組みとして，日露戦争の激戦地であった旅順に行った。旅順は大連日本人学校からバスでおよそ１時間程度かかる場所にある。社会科で事前に学習することはもちろんであるが，その他にも中日友好学友会に所属する金先生から日露戦争や旅順について話を聞く事前学習を行った。中日友好学友会は以前に日本に留学したことのあ

る中国の方や日本文化等に興味のある方で構成されている会である。日本語に堪能な方が多く，日清戦争や日露戦争に詳しい方もいらっしゃる。また，日中戦争や第２次世界大戦当時の経験を生で聞くこと，中国の方の思いを直接聞くことができることは非常に貴重な経験となった。旅順見学では，まず始めに東鶏冠山と日露戦争陳列館を見学した。特に堡塁に残る銃弾の痕を見て，子どもたちはここ旅順で戦争があったこと，その激しさを感じていたようである。また，中国の方がその塹壕の建設に関わらされ，最後には秘密保持のために殺されたことを聞き，戦争の悲惨さと不合理さを強く感じていた。次に訪れた望台砲台には，実物の大砲が２基残っていた。ここでもこれらの大砲が中国の方により旅順港から運ばれたことに驚き，その理不尽さを感じずにはいられなかった。203高地は，日露戦争最大の激戦地と言われている。自然が豊かな現在の203高地と比べることで，平和であることの幸せを感じたとたくさんの子どもたちが感想に記していた。最後は，戦争終結の会見を行った水師営を訪問した。当時野戦病院であった水師営の手術台をテーブルにして会見したとは，驚くばかりであった。現地学習を通して，戦争の恐ろしさや悲惨さ，平和の大切さをより一層学ぶことができた。現地学習後は，再度金先生をお招きし，自分たちの考えを伝え，深めていった。

金先生との学習

東鶏冠山にて
～堡塁の銃弾の痕を手で触り，歴史を振り返る～

子どもたちの感想より

今日、旅順に行って戦争のこわさがよく分かりました。今の平和な時代と全然違う世界でした。日露戦争陳列館では昔の写真を見て、その時代の様子が想像以上にこわかったです。平和ってすごく大切だなと心から思いました。

日露戦争陳列館では、いかに日本、ロシアが何も関係のない中国に影響を及ぼしたか分かりました。二〇三高地で楽しくお弁当を食べている途中に、「私たちのおじいさんの世代がここで戦争をしていたんだな」と思うと不思議な気持ちになりました。戦争の光景を私たちの後の世代には見せたくないという気持ちが一層強くなりました。

(4) 遼寧師範大学学生との交流

遼寧師範大学は大連市内にある大学のひとつである。日本語学科の学生も多い。西安交通大学日本語学科の学生と同じく，日本人と直接話ができることを切望していた。一方私たち日本人学校も通訳を介さず中国の方と戦争や平和の話がしたいという思いがあった。そこで大学キャンパスを訪問し，学生と戦争の悲惨さや平和の大切さについて語り合った。お互いに話し合うことで，仲良くなれること，どの国の人も平和に対する思いは同じであることを認識することができた。真剣に話し合い，共に昼食を食べ，バスケットボールや大縄跳びで楽しく交流する姿に，交流の大切さを感じることができた。交流後，遼寧師範大学の学生からお手紙をいただいた。子どもたちと共に平和について語り合ったこと，おいしく食事をしたこと，バスケットボールが楽しかったことなどが書かれていた。子どもたちもとてもうれしそうに手紙を読んでいた。これこそまさに友好であると感じた。手紙の返信を行い，学生との交流を継続，発展させていった。

子どもたちの感想より

中国の人ととても仲良くなれた気がしました。戦争のことについての大学生の考えや日本人のことをどう思っているか分かってよい勉強になったと思います。

今日の校外学習で僕は，中国の方に感謝しなくてはいけないと思いました。それは，昔日本が中国にたくさんの悪い事をしたのに，中国の方は，「それは昔のこと」と言って笑っていたからです。僕は，そんな中国が大好きです。

遼寧師範大学との交流のときに平和の大切さを聞き，みんな平和を願う気持ちはいっしょなんだと思いました。

(5) 学習発表会

学習発表会に向けての話し合いを行い，旅順での平和学習の取り組みを中心に，戦争の悲惨さ，平和の大切さを伝えていくための方法を，自分なりに考え，その後グループごとの交流によりさらに深めていった。これまでの調べ学習や聞き取り学習，現地学習等から日露戦争に出征した日本兵，ロシア兵，日本軍やロシア軍に連行された中国人，国は違ってもそれぞれが家族を思う気持ちを中心とした劇を考え，自分たちの思いを表現した詩や歌を入れながら，発表することに決定した。学習発表会当日は，保護者や理事会の方はもちろん大連市教育委員会の方や桃源小の校長先生、中日友好学友会の金先生などにも来校して頂き，6 年生の発表を見てもらった。来賓の方も大変感動してくださったという話も聞くことができた。会場の方に 6 年生の子どもたちのメッセージが伝わったことをとてもうれしく思った。

子どもの詩の作品

平和

ぼくの座っているこの場所は
今は平和であるけれど
百年前には争いがあったのだろう
ぼくの今見ている空は
今は青々としているけれど
百年前には人々の苦しみで暗黒の色に染まっていたのだろう
ぼくが今生きている時代は平和な時代なのかもしれない
でも百年前は戦争が続き残酷な時代だったのだろう
だからこそ今を一生懸命に生きよう

命は何のためにあるのだろうか

戦争
国から無理にかり出され
武力で争い　殺し合う
どこに意味があるのだろうか
争うのと話し合う　どちらがいいのか
自分の一生は何のためにあるのか
私たちは今こそ　立ち上がるべきだろう
命を大事にし　平和のために
立ち上がるべきだろう

3．おわりに

大連と日本は歴史的に深いつながりがある。しかしながらそのつながりは日清・日露戦争や日中戦争，第 2 次世界大戦など悲しい歴史と結び付いたつながりも多い。その歴史に子どもたちと真摯に向き合うことで内容の深い平和学習に取り組むことができた。そして，この学習で大きな成果を上げることができたのは，中日友好学友会の方や遼寧師範大学の学生など日本人学校との交流に熱心に取り組んでくださった中国の方の支援も大きい。これからの日中関係に好意的でありながらも過去については中国の思いを素直に発言してくださったことで，子どもたちは過去の出来事に真剣に考え，これからの平和の大切さを感じ取ることができた。自分たちが進んで取り組んでいくという国際人としての自覚も芽生えてきた感触を得た。大連における以上の貴重な経験と実践をさせていただいたことに感謝し，今後の教育活動に生かしていきたいと考えている。